

# 農業農村整備事業位置図

## 神奈川の水田を支える基幹的農業水利施設

### ●頭首工(5施設)



栢山頭首工(小田原市、開成町) 小沢頭首工(相模原市) 磯部頭首工(相模原市)



清水下頭首工(相模原市) 昭和用水頭首工(厚木市)

### ●水路(用水路：7施設、排水路：1施設)

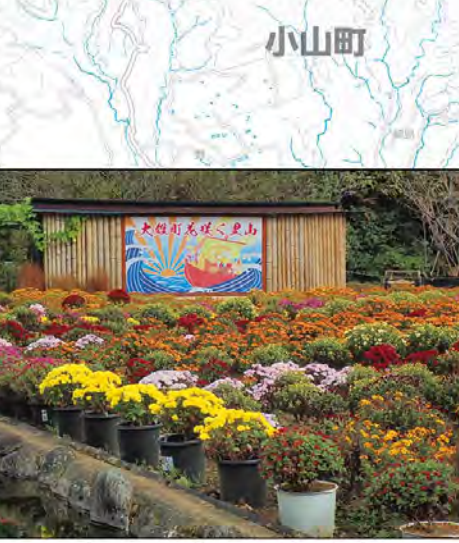
名称	延長(m)
用水路	
相模川左岸幹線用水路	24,603
相模川右岸幹線用水路	20,435
昭和用水路	6,122
文命用水路	2,465
清句堰 <sup>※1</sup>	11,533
鬼柳堰 <sup>※2</sup>	9,303
栢山頭首工用水路	1,824
排水路	
浜田川沿路 <sup>※3</sup>	9,440

**お米はどこで作られる？**  
相模川沿川沿いの平野部での米の生産量  
・地域での米の生産量  
2,770ha<sup>※4</sup> × 494kg<sup>※5</sup> = **13,700トン**  
※4 生産地域に占める10市町村の面積の合計  
※5 10市町村の平均単収  
・県内生産量に占める割合  
13,700トン ÷ 14,400トン<sup>※6</sup> = **95%**  
※6 農水省発表  
・人数で考えると  
13,700,000kg ÷ 56.8kg<sup>※7</sup> = **24万人分**  
※7 米の1人当たりの消費量  
**基幹的農業水利施設が潤す、相模川・清句川沿いの水田地域で県内の約95%、24万人分のお米が生産されています**

## ●疏水百選



萩窪用水 文命用水



黒山でのびる菊まつり(南足柄市)



鉄道沿いの水田での代掻き(開成町)



広域農道と観光・宿泊施設(小田原市)

凡例	記号
県界	○ 県庁
市町村界	○ 市役所
J R	○ 区役所
私鉄	× 駅
高速道路	× 防犯署
国道	○ 高等学校
主要地方道	△ 名勝
一般道路	○ 農業者
歩道	○ 灯台



記号	事業名等	記号	事業名等
○ (Blue)	多面的機能支払事業	○ (Green)	農村復興総合整備事業
○ (Yellow)	中山間地域等農業活性化支援事業	○ (Blue)	農地保全事業
○ (Red)	かながわホームファーマー事業	○ (Blue)	農業用施設防災対策事業
○ (Green)	オレンジホームファーマー事業	○ (Blue)	排水防除事業
○ (Blue)	農産物集積場整備事業	○ (Blue)	農地開係機関
○ (Blue)	農産かんがい排水事業	○ (Blue)	農業用排水施設(灌漑幹線)
○ (Blue)	農業水利施設予防保全事業	○ (Blue)	基幹農業用水路
○ (Blue)	土地改良幹線施設整備事業	○ (Blue)	農産物集積場
○ (Blue)	農業用排水路整備事業	○ (Blue)	農産物集積場
○ (Blue)	広域農道整備事業	○ (Blue)	農産物集積場
○ (Blue)	基幹農道整備事業	○ (Blue)	農産物集積場
○ (Blue)	農道整備事業	○ (Blue)	農産物集積場

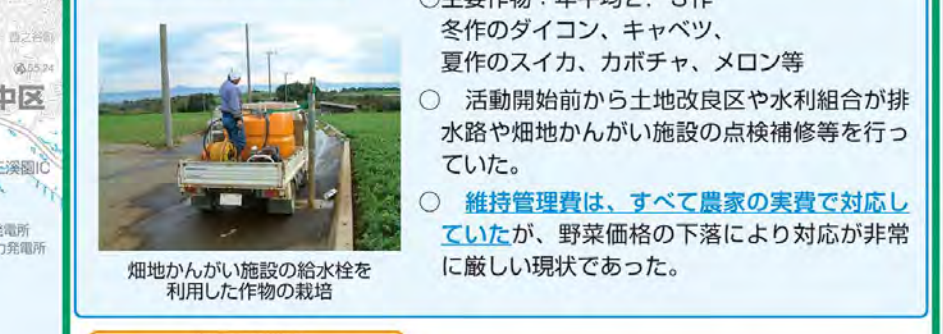
所在地	電話番号
相模川流域農業水利センター	〒231-8588 相模川流域農業水利センター
相模川流域農業水利センター	〒226-0015 相模川流域農業水利センター
相模川流域農業水利センター	〒238-0006 相模川流域農業水利センター
相模川流域農業水利センター	〒243-0004 相模川流域農業水利センター
相模川流域農業水利センター	〒254-0073 相模川流域農業水利センター
相模川流域農業水利センター	〒250-0042 相模川流域農業水利センター
相模川流域農業水利センター	〒258-0021 相模川流域農業水利センター



都市部での営農の様子(鎌倉市・横浜市)

## 農業用施設の安全管理作業の負担軽減と異常気象時の迅速な対応

初声・仲田元屋敷地区農地・水・環境保全会



農地や施設の点検

## 取組の特徴

- 土地改良区や水利組合の事務局を農協等でやっていただくことにより、三浦市内の5つの活動組織の事業を効率よく行うために三浦市農協と連携している。
- 農協の事務支援により、地元農家の事業の事務負担が軽減され、農地を維持するための共同活動や農産物の生産に専念出来るようになっている。
- 活動組織の中に水路委員会を設置、各委員は各ブロックで作業指示や意見聴取し、活動組織の役員が意見を整理することで、次回の共同活動へ活かされる体制が確立している。

## 取組の効果

- 本対策の導入が図られ、全戸有数の野菜生産者となる地帯において、灌漑・水路・畑地かんがい施設の維持管理が可能となり、農業生産の効率化はもとより、農村環境の保全や異常気象による二次災害防止に大きく貢献している。
- 事業導入により、実費負担が軽減し、個人の要望から地域の要望へと意識が変化。

事業名:多面的機能支払交付金(農地維持支払)(平成20年度~)  
取組面積:100.4ha

## 全国的なダイコンの産地である三浦半島

面積当たりのダイコン生産量(トン)
1位 三浦市 82,300
2位 三浦市 80,100
3位 藤沢市 26,900
4位 藤沢市 25,700

【平成3年度生産実績】  
● 500万個以上のダイコンを生産!  
60,100.00kg = 11.7kg<sup>※1</sup> = 514万個<sup>※2</sup>  
● 生産性の高い農業者が輩出しています  
60,100トン ÷ 675ha<sup>※3</sup> = 8.9トン/1ha  
※1 1個重約70g(平均重約70g)  
※2 1個重約70g(平均重約70g)  
※3 1ha(約246.6畝)当たり

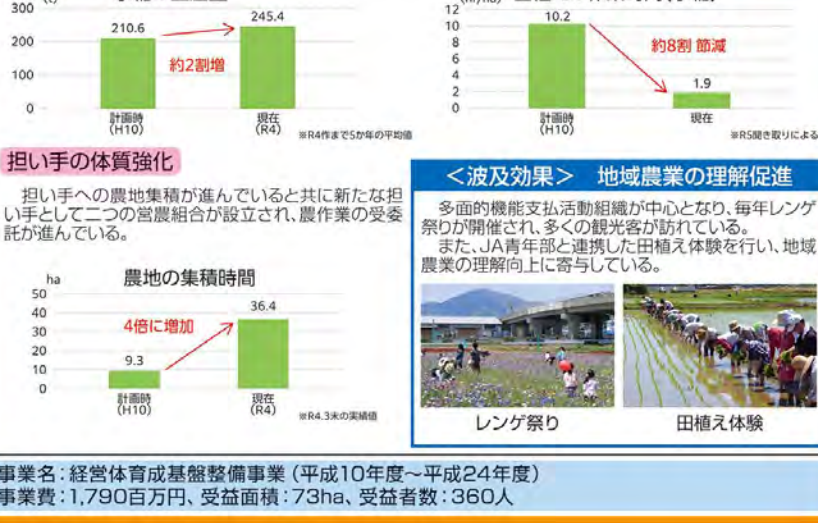
## 水田の大区画化による営農組織の体質強化

【伊勢原市 大田地区】  
○ 地区内のほ場は小規模不整形かつ排水不良であり、また大型農機は狭く、用水路も未整備のため、営農に支障が生じ農業経営は不安定な状況にあった。  
○ 本事業によりほ場の大区画化と農道・用水路の整備を行い、農業生産性の向上、農作業の効率化を図るとともに担い手の農地集積を促進し、地域の農業構造の改善等に資する。



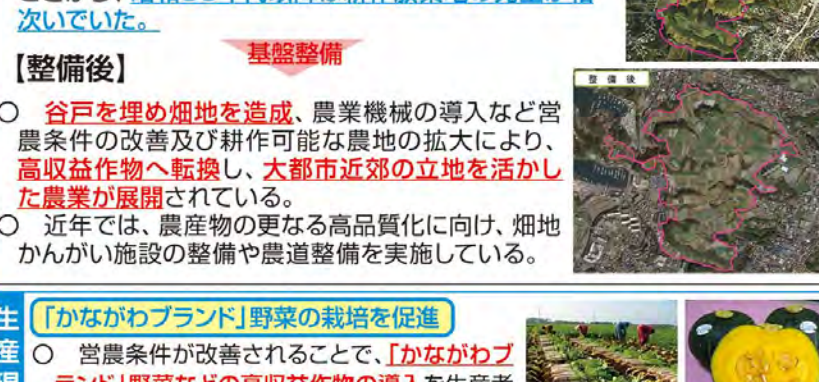
整備により、水田の区画が大きくなった。

## 事業の主な効果



## 都市近郊におけるマーケットインな農産物生産の実践

【三浦市 諸磯小網代地区】  
【整備前】  
○ 三浦半島特有の丘陵地の間に入り組んだ谷(谷戸)は、周囲の水が溜まるため水田として利用されていたが、狭小な水田であり、農作業に多大な労力を要することから、昭和50年代以降は耕作放棄地の発生が相次いでいた。



【整備後】  
○ 谷戸を埋め畑地を造成、農業機械の導入など営農条件の改善及び耕作可能な農地の拡大により、高収益作物へ転換し、大都市近郊の立地を活かした農業が展開されている。  
○ 近年では、農産物の更なる高品質化に向け、畑地かんがい施設の整備や農道整備を実施している。



事業名:多面的機能支払交付金(農地維持支払)(平成20年度~)  
取組面積:100.4ha